

平成 24 年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会利用対策部会 議事概要

■ 日 時 平成 25 年 2 月 13 日(水) 14:00~16:20

■ 場 所 かしはら万葉ホール 4 F 視聴覚室

■ 出席者

<委員等>

田村 義彦	大台ヶ原・大峰の自然を守る会 会長
長嶋 俊介	鹿児島大学 国際島嶼教育センター 教授
西田 正憲	奈良県立大学 地域創造学部 教授
日比 伸子	NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク 事務局
増田 昇	大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授 (ご欠席)
村上 興正	元京都大学 講師

<関係機関>

国土交通省 近畿運輸局 奈良運輸支局 首席運輸企画専門官	藤本 和往
林野庁 近畿中国森林管理局 三重森林管理署	(ご欠席)
奈良県 地域振興部 南部振興課 主幹	上田 一仁
奈良県 くらし創造部景観・環境局 自然環境課 課長補佐	山中 崇史
大台ヶ原管理事務所 主任技能員	田垣内 政信
三重県 農林水産部 みどり共生推進課 公園管理グループ 主幹	服部 真美子
上北山村 建設産業課 主幹	遠藤 学
川上村 地域振興課 主事	大前 卓巳
大台町 産業課長	野呂 泰道
上北山村商工会 会長	中谷 守孝
近畿日本鉄道株式会社 鉄道事業本部 大阪輸送統括部 運輸部事業課	(ご欠席)
奈良交通株式会社 乗合事業部 課長	西田 真一
奈良県タクシー協会 専務理事	吾妻 孝義

<事務局>

近畿地方環境事務所	統括自然保護企画官	河原 武
	国立公園・保全整備課長	藤井 好太郎
	野生生物課長	横田 寿男
	国立公園・保全整備課長補佐	川上 正重
	用地・国有財産専門官	坪倉 真実
	係員	齋藤 倫実
吉野自然保护官事務所	自然保护官	七木 修一
	自然保护官補佐	小川 遥
環境設計株式会社	代表取締役	中野 晋
	計画設計室 主任	三尾 尚己

<傍聴者> 5名

■ 議 事

- (1) 今年度、環境省が実施した利用に関する各種調査及び取組の結果について
- (2) 平成 24 年度西大台利用調整地区モニタリング評価について
- (3) 今後の大台ヶ原の利用に関する議論の進め方について

■ 議事概要（会議は公開で行われた）

構成員等からの主要な意見等は、以下のとおりであった。なお、「⇒ …」は、事務局の回答を示す。

1. 平成 24 年度 環境省が実施した利用に関する各種調査及び取組の結果について

（1）利用動向の把握に関する取組について

（特になし）

（2）適正利用に係る交通量の調整に係る取組について

- ・ 今年度は、バスの利用者が増えるといった良い傾向がみられた。【長嶋部会長】
- ・ 近鉄と連携した割引切符は、以前から発売していたが、平成 23 年度にリニューアルして発売している。昨年度は台風の影響もあり、利用者数が少なかったが、今年は大幅に増加した。
【奈良交通：西田課長】

（3）より良好な森林地域の保全と質の高い利用の提供に係る取組について

- ・ ガイド制度に関する取組の記載がないが、今年度はどのような状況であったか。また、重要な取組であるため、項目立てする必要がある。【長嶋部会長】
⇒ 現状として、ガイドを利用したのは 12.7% という結果が出ている。【環境省：坪倉専門官】
⇒ ガイド制度に関しては、来年度以降、検討していくように仕組みづくりを考えている。
【環境省：七日木自然保護官】
- ・ 現状のガイドは無秩序状態である。まずは現状を把握しなければ構想を練ることもできない。
【田村委員】
- ・ 盗掘防止については、提示の仕方や犯罪であるということをもっとアピールしていく必要があると考えられる。【長嶋部会長】
- ・ 盗採・盗掘について、経ヶ峰の広場に、法律違反である旨の注意標識があつても良いのでは。
【田村委員】

（4）総合的な利用メニューの充実に係る取組について

- ・ 心の道ウオークは大台ヶ原・大峰を中心として平成 17 年から実施しており、今年度は、アクティブレンジャーにも協力をいただきながら実施した。【上北山村：遠藤】
- ・ 今年度、イベントを実施した「かしはらナビプラザ」は、昨年 4 月末にオープンした施設で知名度も低く、展示スペースが 2 階だったため、外から見て人が入ってくるといったところではなかった。告知も至らなかったため、来訪者数は少なかった。ただし、来られた方は滞在時間も長く、アンケートでも好感触であった。また、取組の幅を広げるために、学校と連携していくためには、実施時期について検討する必要がある。【日比委員】
- ・ 地元勉強会について、今後とも実施していくと良い。また、参加者数を増やし、様々な層の方にご参加いただけると良い。【長嶋部会長】

2. 平成 24 年度西大台利用調整地区のモニタリング評価について

- ・ 「利用調整地区運用前までの年間約 5,000 人には回復していない」という表現について、そもそも年間 5,000 人は過剰利用であった。「回復していない」という表現は改める必要がある。具体的には、「今年度の利用者数は 2,730 人で、利用者数は増加しつつあるが、現状では自然環境への負荷はあまり大きくはないと考えられる。(利用者数はもっと増えても良いが、現状の 2,730 人という利用状況であれば、持続的な利用が可能になっている)」といった評価を記載すべき。【村上委員】
- ・ 路肩駐車について、厳しい状況が見られる日もあるため、引き続きピーク時における過剰利用に関する問題が発生している旨の記載が必要ではないか。【長嶋委員】
- ・ 利用者数について、平成 23 年度から 24 年度にかけて飛躍的に増えた要因に関する分析はできているのか。【西田委員】
⇒ 現状で分析はできないが、割引切符の発売や T V 放送、雑誌掲載等の影響が考えられる。【環境省：藤井課長】
- ・ 先日の森林・シカ合同部会で、平成 25 年度のモニタリング計画案が示されていたが、利用対策の計画はどうなっているのか。また、次回の評価委員会でどのように扱われるのか。【田村委員】

3. 今後の大台ヶ原の利用に関する議論の進め方について

(1) 今後の議論の進め方について

- ・ 中長期計画を策定するとあるが、中長期計画は第 1 期、第 2 期にも明記されている。次回、新たに中長期計画を策定するため、第 3 期計画はいらない、というのは整合が取れていないのではないか。【田村委員】
- ・ 第 3 期の計画をつくらないのは、利用対策だけなのか。森林、シカの分野はどうするのか。【田村委員】
⇒ 全体として第 3 期計画を策定する予定はない。それに替わるものとして、中長期計画を策定する予定。【環境省：藤井課長】
⇒ 大台ヶ原の自然再生は永続的に実施していかなくてはならないと考えている。ただし、この事業は現状では、公共工事（防鹿柵の設置、ラス巻き等）の上に成り立っているものであり、これらの公共工事は、いつか一定の区切りが付き、それに伴い、予算が大幅に少なくなる可能性がある。それを見据えて、中長期的な見地からどのようなモニタリングを続けていかなければならないのか、工夫して実施していかなくてはならない。そのため、これまでの取組について、ある程度、整理する必要が生じてきている。次回の評価委員会までにすべてを整理することはできないが、その考え方のロードマップを示し、ご助言をいただきながら、平成 26 年度以降どうしていくのか、ということを整理していきたいと考えている。【環境省：河原統括】
- ・ 森林部会、シカ部会も平成 25 年度をもって最終とするのか。【田村委員】
⇒ 現時点ではないが、整理していく方向で進まざるを得ないと考えている。【環境省：河原統括】
- ・ 3 部会体制となって 10 年であり、転換期であるとは思うが、終わることだけ決まるとなると残念である。新しい体制を構築するにあたって、利用対策部会の役割は何であったのか、どういった成果を残したのか、といった評価を行った上で新たな体制を構築してもらいたい。

【村上委員】

- ・ 第1期、第2期の総括は大変重要である。これまでの計画の内容が今後の中長期計画に、どのように質的に担保されるのか、ということを分かるようにまとめてもらいたい。【長嶋部会長】
- ・ 年1回の会議でこれまですべての評価を行うには無理がある。回数を増やしたり、ワーキンググループを設置したりして検討していくようにしてもらいたい。【村上委員】
- ・ 枠組みを変えることは理解できるが、これまでの検証は大切であり、利用対策部会はこの10年で、できることとできないことがはっきりしたと思う。科学的管理でデータをもとに利用の推進を図れたことは、評価すべきことだと思う。【西田委員】
- ・ 利用対策部会と西大台協議会の関係の中で、これまでではピークの時期の設定について、議論した上で積み上げてきた。これからは新しい協議会に移っていくことになるが、利用対策部会にも議題として挙げていくべきである。（今回の議論の中ではその内容が含まれていなかったため、議題の中に入れておく必要がある）【長嶋部会長】
⇒ 利用調整地区の上限の設定については、利用対策部会での議論を踏まえて環境省が決定するものであるが、これについては引き続き、アドバイス委員会でご意見をいただきたいと考えていきたい。それを地元にご理解を求めていく場が新しい協議会であると考えている。【環境省：藤井課長】

（2）新たな協議会について

- ・ 協議会について、従来の西大台に留まらない、東大台を含めた検討を行う協議会に変わったが、参加している団体はどのように捉えているか。【長嶋部会長】
- ・ 上北山村としては、大台ヶ原を地域振興に有効に活用していきたいと考えている。それぞれ立場の違いがあるが、利害調整の場として有効に活用していきたい。【上北山村：遠藤主幹】
- ・ 川上村は、観光の立場で参加している。観光客の誘致につなげていきたいと考えている。【川上村：大前主事】
- ・ 大台町は、地域的な差はあるが、観光面・環境面での利用について情報共有を進めていきたいと考えている。【大台町：野呂課長】
- ・ 利害関係者の間で幅広い議論ができるることは歓迎している。ただ、評価委員会がなくなった後のことが心配だ。【奈良県自然環境課：山中課長補佐】
- ・ 多くの人に来ていただいて地域振興に結び付けていくことを第一義として考えている。自然環境保全を念頭に置きつつ、地域振興の発展を目指す上でありがたい場である。【奈良県南部振興課：上田主幹】
- ・ 環境面と生活・利用の面から協議調整の場として期待している。【三重県：服部主幹】
- ・ 利用調整地区の窓口業務に留まらず、利用者の質の向上を果たしていければと考えている。【上北山村商工会：中谷会長】
- ・ 公共交通として、様々な立場の方のご意見を伺いながら、できる限り協力していきたい。【奈良交通（株）：西田課長】
- ・ バスの利用が増えているのは喜ばしい。今後はタクシーの利用活性化も含めてタクシー事業とタイアップしていただきたい。【国土交通省：藤本首席運輸企画専門官】

以上